

## 新型コロナワクチン窓口予約受付開始にあたって

現在新型コロナウイルスは、未だ流行が収束する兆しはありません。昨年来のオミクロン株流行でお子様の感染も珍しくありませんが、より心配なことは**昨年一年間、日本全国で50人も小児が新型コロナウイルス感染症で亡くなっている**ことであり、**その半分は基礎疾患の無い本来健康なお子様**です。**新型コロナワクチンは**インフルエンザワクチンと同様、感染そのものを完全にブロックすることはできませんが、これも**インフルエンザワクチン同様、高い確率で重症化を予防できる**ことが世界の多くのデータで証明されています。日本で新型コロナ感染症で亡くなったお子様の大部分はワクチン未接種者であり、もしワクチン接種を受けていたら救えた命であった可能性が高いと考えられています。

昨年来の流行ですでに新型コロナに罹患されたお子様も多いと思われませんが、よく知られているように**新型コロナウイルス感染症は罹患して治癒しても、RSウイルス感染等と同様、長期間持続する免疫はできません**。いったん治癒しても3か月（最短で2か月）経つと再感染可能となり、最悪、年に3〜4回の感染を繰り返す事例さえあるのですが、世界の大規模研究で**治癒後にワクチンを接種した場合は、再感染のリスクが劇的に下がる**ことが科学的に証明されています。つまり、**新型コロナウイルスに対する免疫は感染しただけでは得られず、感染後にワクチンを接種することによって初めて有効な免疫が得られる**のです。

現時点で小児用ワクチンによる、重篤な副反応はわが国では報告されておられません。国内のいくつかの検討で**小児用ワクチンは成人用ワクチンに比較して、発熱などの副反応がかなり低い**ことも報告されており、**小児用新型コロナワクチンの安全性は極めて高い**と考えられています。先日も大阪で基礎疾患のない健康なお子様が新型コロナウイルス感染症で死亡したことが発表されました。全国的には稀とはいえ、**いつ大事なお子様が重症になり生命の危険に曝されるかわかりません**（**現時点で重症化を予測する手段はありません**）。また小児の重症例は成人と異なる

り、大部分が脳症・脳炎などの重篤な神経疾患であることも判っており、たとえ救命できたとしても一生涯、神経後遺症に曝される可能性が心配されます。**ぜひ、小児用ワクチン接種による重症化予防を、お子様に対してご検討ください。** いったん新型コロナに感染したお子様も、隔離期間が終わればワクチン接種は可能です。

ご不明な点は当院院長までお気軽に、ご質問ください。

2023/1/16

むらせ赤ちゃんこどもクリニック  
院長 村瀬真紀

日本小児科学会は**5～17歳のすべての小児に**  
新型コロナワクチン接種を推奨します（2022年8月10日）

日本小児科学会は**生後6か月以上5歳未満のすべての小児に**  
新型コロナワクチン接種を推奨します（2022年11月2日）

日本小児科学会予防接種・感染症対策委員会